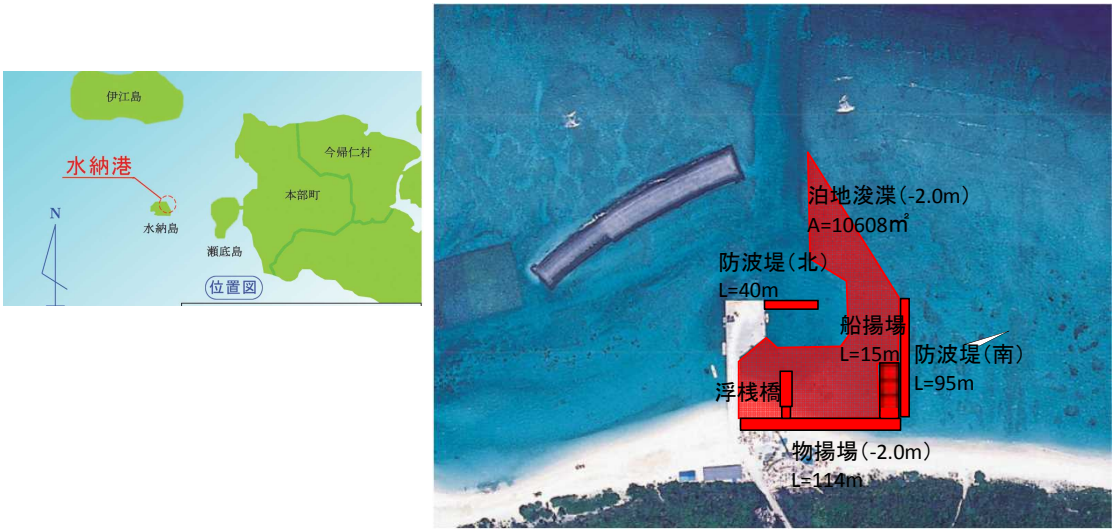


公共事業事前評価調書(平成29年度予算要望)

所管課: 港湾課

担当班: 計画調査班

事業名	水納港港湾改修事業		事業区分	港湾事業	事業主体	沖縄県
事業箇所	水納港(本部町)					
事業の諸元	防波堤(北)L=40m、防波堤(南)L=95m、泊地(-2.0m)A=10,608㎡ 物揚場(-2.0m)L=114m、船揚場L=15m、浮棧橋一式					
事業の概要	水納港は、本島北部の西約7kmの水納島の北東側に位置する地方港湾である。本港は本部港渡久地地区との間に定期船が運航している他、近年ではプレジャーボートの利用もある。本港では船舶の乗降において物揚場と大きな段差が生じることや、物揚場施設が狭小でプレジャーボートが安全に係留できていない状況がある。このような状況の改善のため、浮棧橋、物揚場、船揚場、防波堤、泊地の整備を行う。					
事業の必要性・効果等	<p>《必要性》水納港は、定期船が就航しており、離島住民のアクセス航路、観光客の水納島へのアクセス航路として利用されている。本地区は定期船は夏場の海水浴シーズンにはピストン運航があり、また通年を通して乗降客が多い。しかしながら、船舶の乗降において、物揚場と大きな段差が生じることから、安全かつスムーズな乗降ができるよう、利用者から求められている。さらに、物揚場施設が狭小で、プレジャーボートは施設外の箇所に停泊したり、係留している状況があり、在港および来島するプレジャーボートの安全な停泊・係留が求められている。これらのことから、潮位の変動に追随し安全な乗降りが可能になる浮棧橋、船舶に係留する物揚場、荒天時に船置きが可能な船揚場、船舶の回頭範囲を確保する泊地、および港内の静穏度確保・浮棧橋の安全性の確保のために防波堤を整備する必要がある。</p> <p>《効果》港湾施設を整備することで利用者および利用船舶の安全性・利便性を確保することができ、更なる利用促進が図られることで水納島の観光振興および島民の安定した生活に寄与することができる。</p>					
事業期間	事業採択	平成29年度	完了(予定)	平成31年度		
全体事業費	8.8	(億円)	補助・単独の別	補助	補助率	9/10
事業着手の熟度・上位計画との整合性	沖縄21世紀ビジョン基本計画において、「基本施策3-(11)離島における定住条件の整備—ウ交通基盤の整備と交通ネットワークの充実化」に位置付けがある。					
環境への配慮	防波堤等の新設により、周辺の砂浜の形態に影響を与える可能性があるため、十分に考慮する必要がある。					
関係する地方公共団体等の意見	地元および本部町より要望がある。					
概要図(位置図)	 <p>The figure consists of two parts. On the left is a location map showing the island of Minatogawa (水納島) in relation to Iriomote Island (伊江島), Minatogawa (本部町), and the village of Imamura (今帰仁村). On the right is a detailed aerial site plan of the port area, highlighting the proposed improvements in red: a 40m long northern breakwater (防波堤(北)), a 95m long southern breakwater (防波堤(南)), a 15m long cargo pier (船揚場), a 114m long cargo platform (物揚場) at -2.0m depth, a floating pier (浮棧橋), and a 10,608㎡ berthing area (泊地) at -2.0m depth.</p>					